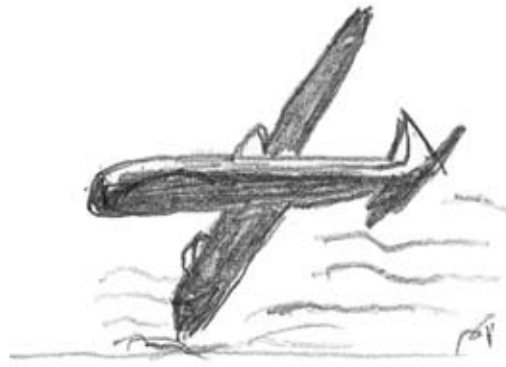


みんなの童話

えらい、えらい、じいちゃん



サチは大好きなじいちゃんと、今日はドライブです。初めての道ばかりで楽しく、うきうきでした。「じいちゃん、どこへ行くの?」「それは行ってからのおたのしみ」

サチは胸がわくわくしてきました。途中のコンビニで、おにぎりと、ジュースを買ってもらい、ルンルン気分です。じいちゃんは、山の下の道に車を止めました。

「じいちゃん、ここはどこ?」「ここは常滑とこなめでな、この山はおんたけさんだよ、少しのぼるとお堂があるよ」

サチは、とこなめと聞いてセントレアを思いました。「この山をのぼるの?」「この山をのぼると、サチのびつくりするよな、ものが見えるよ」

サチは山の上に何があるのか、楽しみでした。じいちゃんは、何か得意そうな顔で、「これからは少し坂道だから、気をつけて歩きなさい」

サチは山道を歩くのが、初めてなので、足に力を入れて歩きました。

道の両側には大きな木があり、少し涼しく、木の葉は秋の色でした。

でも、じいちゃんの言った、びつくりするほどの物は、どこにも見えません。まわりは大きな木ばかりです。びつくりするほどの物を、早く見たいです。

「じいちゃん、この木なんの木?」「この木は桜の木じゃ、春には美しい花のトンネルだな」

「来年の春、わたし一年生になって、花のトンネル通りたい」

サチは来年の春が楽しみですよ。じいちゃんも、「そつだな、サチと花のトンネル

を、通ると楽しいな」、桜の木を見上げて言いました。

山道を少し歩くと、汗が出てきました。じいちゃんは一步、歩くたびに「ああえらい、えらい」と言います。少し歩くとまた「えらい、えらい」と言います。サチは何がそんなに、えらいのかと思いました。

途中から石段がありました。その石段を上がると、展望台が見えました。「展望台だ」

サチはじいちゃんを追いこして、走りました。「うわ すこい海」

展望台からは、広い海が見えました。じいちゃんは、得意そうに、指さして、「サチ海、見えたか、セントレアだよ」

サチもびつくりです。大きな島が、海の真ん中にありました。セントレアは、パバと車で行く所だと思っていました。

「あつ...飛行機が大きく見える。今から飛ぶよ、どこへ行くのかな」

海に向こうからも飛行機が帰って来ました。海を見つめていたじいちゃんが、ポケットからハーモニカをとり出して、吹き始めました。

「うーみーはひろいなー
おーきいなー つーきがのぼるしー ひがしーずーむ」

サチは、ハーモニカに合わせて

歌いました。ばあちゃんが良く歌っていたので、おぼえていました。

じいちゃんは何時も、上着のポケットに、ハーモニカを持っていて、いろいろな歌を吹きました。サチのじいちゃんは、本当にえらい、えらいと思いました。

サチとじいちゃんは、海を見ながら、おにぎりを食べました。海からは気持ちのいい風がふいて来ました。

「サチ、ぼつぼつかえろつか」

山の、おんたけさまに、お参りして、かえることにしました。

サチは、じいちゃんに、十円おさい銭もらって、お参りました。

「おんたけさん、来年サチが小学校へ入学したら、また来ます。えらい、えらい、じいちゃんを、元気ですようお守りください。ああそつだ来年は、ばあちゃんも、弟にも海を見せてあげたいです」

お堂のうらの方には、昔の人のお墓が、たくさんありました。

「おんたけさーん
さよつならー」

動き出した車の窓から、サチは手をふりました。

しろやま会員 中川かなめ